

「令和4年度挑戦項目」

1, 無負荷増大発電装置にチャレンジ

(出願済み; 磁気 XXXXXXXXXX 発電装置)

(簡略説明) ⇒ 小型原形装置は、略完成した。

- ① 電気エネルギーを汲み取るに+・-の発生負荷を無負荷にする。-
- ② 電気発生銅線の「巻き方」を工夫することで、無負荷発電は可能です。但し大気摩擦・ベアリング摩擦は、避けて通れぬ課題です。
- ③ 表現を変えればもう一つの+・-を創作し反転技術手法を汲みだせば、これも可能です。

2, 水素発電にチャレンジ

(簡略説明) 小型原形装置は、略完成した。

- ① 水から、水素²・酸素(?)を小電力で分解。
- ② 分解した、水素²・酸素(?)を1気圧の環境で、計画的に放出させる。
- ③ 放出された水素²・酸素(?)の分子、原子を可逆させる。
- ④ 放出気体は、理論的可逆混合比の条件が万全に整っていることから自然の摂理の法則に従いコンバッションを発生させれば、安全で最も効率の良い対曝エネルギーを獲得する。
- ⑤ 対曝エネルギーの活用の方法は、蒸気軸流式タービン、対曝タービン等諸々の発創で計画している。
- ⑥ 本計画のエネルギー獲得の手法は、今までにないエネルギーの取得法を考えています。

3, 半永久回転装置近は未来にチャレンジ

(簡略説明・磁力発電機の特長添付)

- ① 反発力を利用する。
- ② 反発を回転振りへと「変換」し、スピン360°トルクを獲得。
- ③ 右捻りエネルギーと左捻りエネルギーの2出力を獲得。
- ④ 永久磁石の配置と組み方他空間力(斥力)を活用する。
- ⑤ 半永久とは、装置の劣化の表現で、機能は「永久」です。

※前記3チャレンジは、あくまで簡単な前駆体説明です。

当該様へ(ご要請の件)

松井エネルギー研究所日向支所発

総責任者

中窪一豊